

令和5年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	新生会
事 業 名	茨城県猿島郡境町「自動運転バスについて」
事 業 区 分	① 研究研修 ② 調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

市内の公共交通事業者は、深刻な運転手不足や運行経費の増加が重なりバス路線や地域交通網の維持が困難になっており、実際に2024年問題に伴い運転手不足から4月からのバス路線の減便となり、公共交通の利便性がさらに低下した。上田市が令和5年度に策定した「上田市地域公共交通計画」は、都市の持続性と「ネットワーク+多極・拠点集約型都市構造」の形成を目指しており、地域公共交通を生かしたまちづくり（交通まちづくり）に取り組みを進めているが、現在即効性のある解決はかなりの難題であるとする。そこで、近い未来には自動運転EVバスの導入が有効な手段であるとする中、昨年の秋、上田市に本社を持つHIOKI様とマクニカ様は、カーボンニュートラルを目指し、企業主体は初の取組みとなる自動運転EVバスの導入に向けた実証運行を行った。そこで、この上田で行った実証運行と同じ車種を3台導入して、自治体初となる公道で定時運行を実現した堺町に伺い、取り組みの経過、現状、そして今後の展望を研修し、さらなる人口減少での運転手不足、高齢者の免許返納の移動の確保、ゼロカーボンに対応した交通まちづくりについて学ぶ。

2 実施概要

実施日時	視察先	茨城県猿島郡境町
令和6年2月15日(木) 12:30~14:30	案内人	境町議会議員 倉持 功氏 (株)さかいまちづくり公社 齋藤 真琴氏 BOLLY(株)市場創生部 渉外課 加藤 貴章氏 (株)セネック モビリティ事業部 中村 文代氏

報告内容・感想(まとめ)・市政に活かせること

1. 境町の概要

茨城県の南西部、関東平野のほぼ中央に位置している、利根川の豊かな水の流れと緑あふれる田園都市です。人口は25,074人、面積46.59km²。境町は、古くは利根川水運の拠点「さかい河岸」として栄えた町。近年では、「自然と近未来が体験できるまち」をテーマに、全国初となる自動運転バスの定常運行や世界的な建築家、隈研吾設計による建物を7施設建設している。ふるさと納税では、2017年より5年連続関東1位を獲得、令和5年度は95億円の見込み。

2. 視察内容

(堺町観光協会の視察プログラム 2H) 視察料金一人当たり13,750円。

車両概要説明: 車両の仕様、走行の原理、車両ラッピングに込めた思い等の説明(15分)

試乗(自動運転バス): 「境町高速バスターミナル」～途中バス停～「株式会社セネック(遠隔監視室)」を往復(30~45分)・道の駅や隈研吾さん建築物を視察。

座学: 境町の取り組み説明、遠隔監視システム説明、質疑応答(60分)

ア. 自動運転バス NAVYA ARMA を活用したまちづくりについて

① 自動運転バスについて

自動運転バスはフランスのNAVYA社製『NAVYA ARMA(ナビヤ アルマ)』の複数の自動運転車両の運行を遠隔地から同時に管理・監視できる株BOLDLYの自動運転車両運行プラットフォーム「Dispatcher (ディスパッチャー)」を活用して、町内の医療施設や郵便局、学校、銀行などをつなぐルートで自律走行バスの運行が可能となる。実際に自動運転バスの遠隔監視を行っている(株)セネックは、本社機能を新宿から茨城県境町へ令和4年11月に本社を移転し、境町・北海道上士幌町・HANEDA INNOVATION CITY・愛知県日進市・岐阜市・多気町・伊予町の7地域の自動運転バスの定常運行遠隔監視が行われている。



② なぜ境町に自動運転バス？

茨城県の中で境町は千葉・埼玉・群馬の県境に位置する町で鉄道駅がなく、公共交通が脆弱である。境町は高齢者も多く車の免許を返納したくてもできない町民がいる事と、若者が東京に行きづらいことを危惧していた橋本町長が2020年に自動運転バスの導入を検討。自動運転事業の運行・管理を推進している株BOLDLY(旧SBドライブ)と輸入商社マクニカの協力で、自治体初となる公道での自動運転バス実証実験と定時運行を実現させた。

(経緯)

2019年11月 橋本町長がyahooの記事で自動運転バスを知る

12月 (株BOLDLY(旧SBドライブ)の社長と面談

2020年1月 臨時議会で予算承認(社長と面会から年末年始休業を挟み開所日4日で実行)

11月 町内での1ルート(中心部の主要拠点)走行を開始。2023年には3ルート。

(自動運転バス導入の決定の根拠)

公共交通機関が発達していないことによって、境町に住み続けられないというのは、大きな課題と捉え、境町に長く住み続けることができ、誰もが生活の足に困らないまちを目指すために、町民の声を取り入れながら、自動運転バスの導入をすることに決めた。

③ 自動運転バスってどんな車？

現在、境町には3台の自動運転バスがあり往復で2台稼働し1台はメンテナンスをローテーションして運行。境町の自動運転バスの定時運行は、当初2020年4月からの開始予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、半年間延期した。この半年を利用し、車両のラッピングデザインを一般公募するコンテストを行い3台のうち1台に境町のコンセプトである『自然と近未来が体験できる境町』をイメージしたデザインを採用した。2台の外装と座席カバー境町出身のアーティストである内海聖史氏が制作したキービジュアルを採用している。

④ 自動運転バスの運行内容

- ・午前7時40分～午後4時まで 土日祝日も運行
- ・乗車人数：最大11人 ・運賃無料



・自動運転はレベル2（部分的に運転が自動化された車両で、アクセルとブレーキ操作による前後の加速や減速の制御と、ドライバーによるハンドル操作と両方をシステムが担う）

・乗車方法：堺町在住の方は最寄りのバス停(民地を借用)より乗車。便数：20 便

⑤ 財源

運営コストは、ふるさと納税と補助金を活用しており、町の持ち出しは0であり、堺町モデルによる運営方式。導入時、2020年1月の町議会で5年分約5億2000万円の予算を全会一致で可決したが、導入する車が国産ではないので、国の補助金が取れないことで、ふるさと納税を推進し活用した。

⑥ 自動運転バスの効果

地域での効果・・免許返納しても生活できる見通しがついた、堺町に来る人が増えた、買い物にいけるようになった。東京駅行き的高速バスと接続で交通が便利になった

経済効果・・およそ7億円

テレビ放映22件、新聞・メディア掲載67件、高速バス乗車数(東京⇄堺町)R3.9487人⇒R5.231,641人（東京からのラ来訪者激増!）、名古屋の会社が本社機能を堺町へ。

法律規制の緩和効果・・さかいARMA（自動運転車）は世界で一番の走行実績とデータ提供実績があることから、一年間無事故で走行中⇒自動運転の免許取得が、都道府県から全国共通に変更や、補助員が一名に減に法律改正などに貢献している。

視察実績・・累計視察件数 341団体 累計視察人数 2208人（*視察は1人当たり約1万）

3. まとめ

堺町橋本町長が就任して10年目。「自然と近未来が体験できるまち」を実現するスピード感と決断力、目的志向の自治体マネジメント力で目覚ましい発展を遂げていることを目のあたりにし驚きの連続であった。「何も持っていないからこそ、売りを作って稼ぐ」この経営センスを自治体に通用させるには、町長の経営者目線のリーダーシップと町民との信頼関係、議会との調和があるからこそ。町民と共に稼げるまち、好循環を創り上げているのは、すべての町民が当事者意識であるからこそ、成し遂げられると実感した視察であった。

一例でいうと、財政再建では、9年間で地方債残高を約21億円削減し、基金残高を約7億円から約43億円に増やした。その戦略には「ふるさと納税の売れる返礼品」の開発とマネジメントを徹底し、就任前の13年度に6万5000円から22年度には60億円弱に達した。この財源で、子育て支援をはじめ、町民の暮らしの充実のために活用され、移住者は、人口の約5%の1245人（令和4年度実績）となった。

住みやすいまちづくりが広がることで、町民の安心感が増し移住者が増え、にぎわいが増し、様々な財源確保により新たな町民サービスができる。まずは、住んでいる町民が主人公である、すばらしい堺町の好循環です。

今回の視察の目的である運転手不足に伴う、近い未来の自動運転EVバスに期待を持ちたいと考えた。「上田市地域公共交通計画」では、先進技術（EV車両）を活用した新たなモビリティの導入等は、2027年まで検討、研究と打ち出しているが、人手不足には歯止めはかからず、堺町のような、斬新でスピーディーなチャレンジが上田は必要であると考え。特にHIOKI(株)様が昨年行った実証実験で、上田地域における自動運転の理解の下地を作ってくれた。財源確保の課題があるが、まずは、住民の足の確保の視点ではなく、観光資源としての社会実装と空洞化する市内の活性化を目的にスモールスタートはできないか、検証していただきたい。「始めてみなければ、何もはじまらない」。チャンスは上田にはあると認識するので検討されたい。

